

氏名	村 田 文 雄
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 4 4 1 号
学位授与の日付	昭和45年 9 月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	ヒトの骨格筋線維分化に関する研究 第1編：赤筋、白筋および中間筋線維型に関する組織化 学的電子顕微鏡的研究 第2編：赤筋、白筋および中間筋線維の神経終板に関する
論文審査委員	教授 大 内 弘 教授 砂 田 輝 武 教授 大 塚 長 康

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

ヒトの骨格筋の各線維型すなわち赤筋 (R f) , 白筋 (W f) および中間筋 (I f) 線維型の微細構造について報告する。ヒトの各線維型は糸粒体の含有量および配列状態によって次のごとく特徴づけられる。

- 1) R f では筋原線維間に太く長い糸粒体の連鎖状配列を有するが, W f ではほとんどなく, I f は R f よりその数がやや細い傾向がある。
- 2) I 帯上での糸粒体の網目状格子模様は, R f で糸粒体が大きく網目が粗い。W f では網目が小さく密であり, I f は W f のそれに近い傾向がある。
- 3) R f では筋鞘下に糸粒体の集簇が部分的にみられるが, W f ではほとんどなく, I f ではときにみられる。

神経終板に関しては, 一般に W f では終板が大きく接合襞が良く発達して数が多く, 長く, 分岐するものも多い。R f では接合襞の発育が悪くその数は乏しく, 短く分岐するものは少い。I f では両者の中間を示している。また神経筋接合部附近の線維構造においては, 比較的糸粒体に乏しく多種多様の小胞体が多数存在し, さらに筋原線維が不規則に配列をなしていることが観察された。
(岡山医学会雑誌 82巻5, 6号に発表予定)

論文審査の結果の要旨

本研究は、ヒトの肋間筋線維の超構造、組織化学的所見および運動終板の超構造を研究し、従来ヒトにおいては充分明かでなかった3種筋線維分化に重要な知見を加えたものであって、価値ある業績と認める。

よって本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。